

静岡大学附属図書館

図書館通信

目次

- ・ 図書館利用統計 3-4
- ・ OPAC検索実習のお知らせ等 4
- ・ 蔵書100万冊突破! 4
- ・ 浜松分館からのお知らせ 5
- ・ 教官著作寄贈図書一覧 6
- ・ 開館スケジュール/長期貸出等のお知らせ 8

高度情報化時代に私たちはどうしたらいいのだろうか?

和田 秀樹

ここ10年のあらゆる世の中の変化は、とても激しすぎて進化が追いつかない。ことのほか情報化にあつてはその急先鋒です。ひと昔前の1987年、縁あってアメリカ合衆国テキサス州カレッジステーションにある、Texas A&M 大学(TAMU という)に1年あまりお世話になるとき、NECの文豪ミニ5をえいやっと買って出かけました。日本でもハンバーガーみたいな名前のコンピューターが出回ってるのは聞いてはいたが、Macintoshはオーディオメーカーとばかり思っていたし、TAMUに行つて初めて、どこの部屋を覗いても白黒のコンピュータ画面とにらめっこしていて、この世界はなんだろうかと軽いカルチャーショックを味わいました。日本はファックス通信が最盛期で、アメリカに来てみたらそれ程使われていなくて、何でこんな便利なもの使わないのかと思っていたら、そのうちE-mailが普及してあれよあれよと言う間に今のようになっていました。TAMUの図書館は平地の5階建て、とんでもなく広くて、いつもごったがえしておりました。私のTAMUでの仕事は、地下水に含まれるガスの同位体比を測ることで、ほとんど室内実験ばかりだったので、あまり図書館を使う機会がありませんでしたが、行ってみれば調べものをする場所も少し休もうとするコーナーも、大学にとって図書館が快適でなくてどこを快適にするところがあるかと、”利用者は皆VIP”というのも大げさではないのです。この時既にコンピューターによる文献検索は、

蔵書については全て完成して使われていました。

Texasから帰つてすぐマックを購入、ほとんどワープロとして使っていましたが、表計算、図描き、文献検索と一通り初歩的に使えるようになり、まだ高度情報化とまでは行きませんがユーザーのメリットに浸りました。理学部地球科学教室のアップルトークによるコンピュータネットワークができたのが1991年の夏以降、大学内としては一番早い方ではなかったでしょうか。Texasから8年後、1995年の8月に約一カ月間、静岡大学の姉妹校ネブラスカ大学のオマハ校(UNO という)に、短期サマーツアーの付き添いとして出かけました。アメリカの大いなる田舎の大学と言う前評判を耳の奥に残しながら。この時もえいやっと、Mac Powerbookを持参しました。この辺の事情は「静大より122号」に、そしてもっと詳しくは「ネブラスカ研修報告書」に暇に任せて書きました。UNOの学生数は静岡大とほとんど同じくらいと言うのに、その広々とした図書館の充実ぶり、そしてしょっちゅうごった返している閲覧室を見ると、やはり様子が違うなと思うようになります。UNOは文系中心で、自然系の専門や大学院コースはなくて、教養教育科目としてのみ存在しているのです。だから、自然科学専門の研究は全くできないと言ってましたし、確かに分析機器も見当たらず、あるのはMacとIBMのコンピューターばかり。そこにいた地球科学のRob先生は、分析器械を借りに週二回くらい自分の出身校のカンサス

大学まで3～4時間車をとばすのだそうです。

滞在の後半、多少自由な時間ができ、頼まれていた辞典の項目調べの仕事をしようと UNO の図書館を見に行きました。さすが大きな図書館でしたが、自然科学系の図書はあまり置いてなく、我が静岡大学の図書館や教室の図書とあまり変わらないではないかと思いましたが、実はそうではなく、文系の大学なのにうちの教室と同じくらいの図書があるではないかとつぶやかなくてはいいけないのです。そしてネブラスカ大学リンカーン校で半日調べものをするにしました。リンカーン校には立派な地質教室があるとは聞いていたのですが、行ってたまげた。(こういうのは私が知らないだけで、世の中を知らない静岡の田舎者の恥をさらしているようなものかもしれないのですが) 地質学教室の建物の半地下にある図書室は、静岡大学の図書館のフロアーほどの書庫に、雑誌類は整然と製本され、通常私たちが必要とする種類の雑誌は全て見ることができます。リンカーン校の地質教室の図書のお婆さんは(なんて気安く呼んではいけない、セクレタリと言わないといけない) ちょっと小太りの多分50才半ばのお婆さんでした。私が来意を告げると、「よくぞはるばる静岡というそんな遠くからこんなところに来てくれた。どうかあなたは十分な調査をしていって、私たちの図書が役に立てたら私はなんて嬉しいことでしょう。」てな具合で、さっそく CD-ROM でキーワードを使って文献検索のし方を教えてくれます。多分老眼で、眼鏡をかけたりはずしたりしながら、コンピュータに打ち込んで、「エーとね、こうしたらここんところをクリックするとね、ほら出てきたでしょう」と手つきはこのあいだ習ってきたばかりの様でしたが、結果は申し分ありません。「最近の雑誌には、この項目に関しては9編の論文が出てますよ。これ以上はありませんよ。でも日本語の論文は知りませんけどね。あなた知ってるわね。」実はそれまで CD-ROM の文献検索を自分で使ったことは無かったのです。Mac が売れたのも、素人にも使えますがポイントでした。道具は誰でも間違いなく使えることが肝心です。

そして10年後の今、静岡大学は高度情報化推進を声高々に進めようとしています。図書館も同じように進みましようと言う気運になっています。これは大変にいい機会です。この前の図書館通信にも将来構想はとり

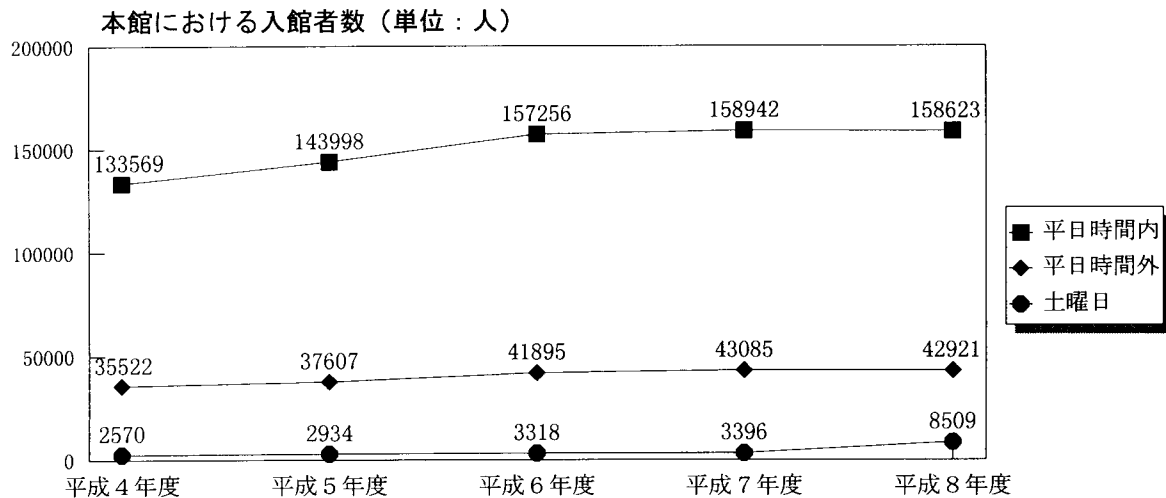
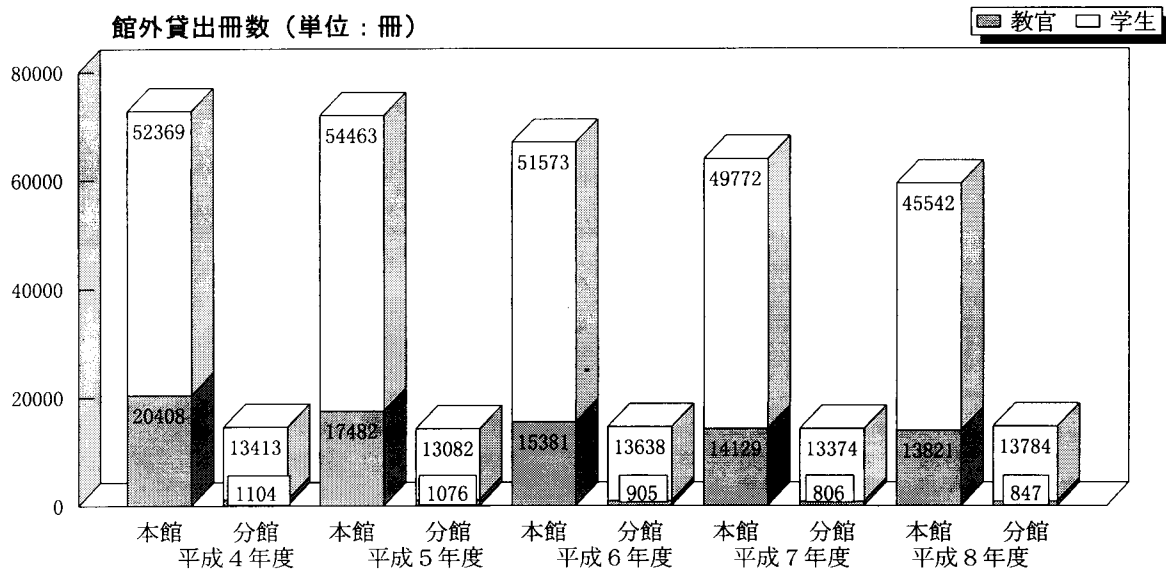
あえず掲げてみたもののどうもお金がつからないし、到底できそうもない計画だな、でも何かできることをしないと、といった様であまり元気がでておりません。図書館の役割は自明のようですが、学術情報センター等とのネットによって、静岡大学内での利用だけでなく、全国から世界中で使える共通の財産となりつつあります。こうなってくると学内で整備が遅れているということは許されなくなってくるでしょう。静岡大学もようやく50周年を迎えようとしており、自己点検・評価の一つとして、図書館の基盤整備は急がねばならないものの先頭です。

有り体に言うと私は、身の回りの整理もそうだが、文献整理ができていなくて、自分の部屋にあるコピーを捜すのにあちこち積み重ねられた書類や本の中から探し出すのに半日もかけて、その結果でてこないと言うような経験が結構あるのです。実は、この高度情報化推進は、自分の様な整理のできないものにとって代わって整理してあげましようと言うシステムかと思うようになりました。しかし、自分の持つ情報は自分が整理するのが最も良いし、整理してもらう人を雇って貰えるなら結構、とにかく整理してデータベースを完璧にしておかないと後で使えません。自分の研究の性質上、世界中から岩石試料をとってきて分析しております。この試料は自分の取ってきたものなので自分のものかなと思いますが、取るのに税金も使われていて、少なくとも自分がなくなったら必要ある人にも開かれる共通のものと考えないといけないのです。そのためには、実物とそれに関する情報が一緒になって整理されている必要があります。このあたりの知的財産に対する考え方とサービス精神が、悔しいかなヨーロッパの人々の偉大さに比べ、私たちに決定的にかけている面があると思わざるを得ません。知識と文化を積み上げてゆく構造欠陥があるのではないかと感じます。その結果、3匹の子豚の藁の家とレンガの家ほどの違いができてしまうのです。

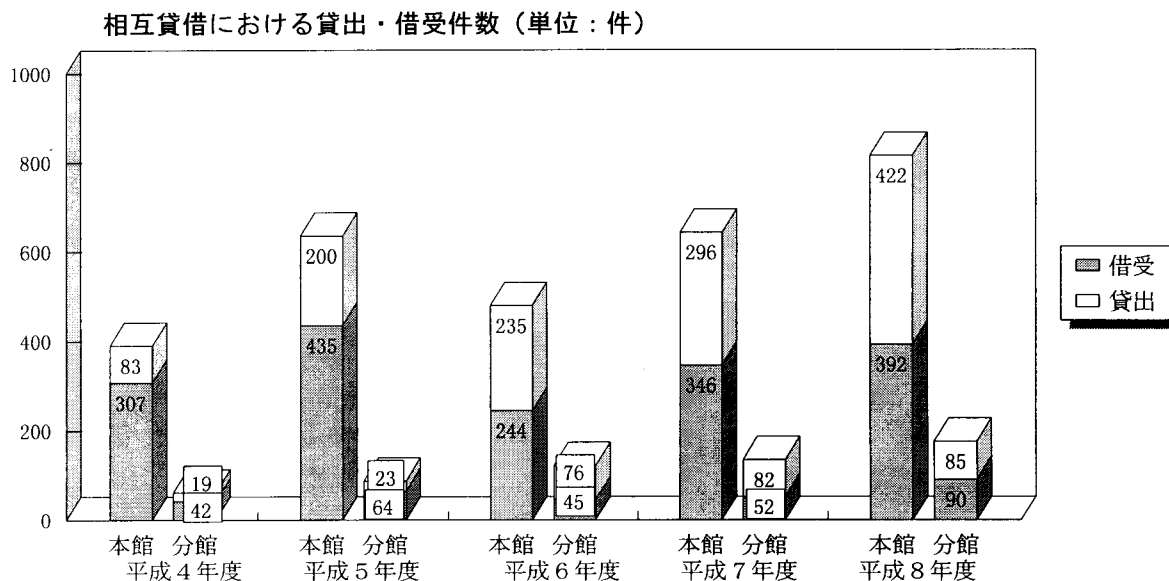
とにかく、文明は世界のどこの人でも使いたい人には使えるように整理する利器を提供しております。図書館のデータベース化も大分進んではいるようですが、この作業に少なくとも今以上に労力とお金もつぎ込む必要があります。緊縮財政ではありますが、図書費の一部を裂いてでもやらないといけないと思うのです。

(理学部生物地球環境科学科教授)

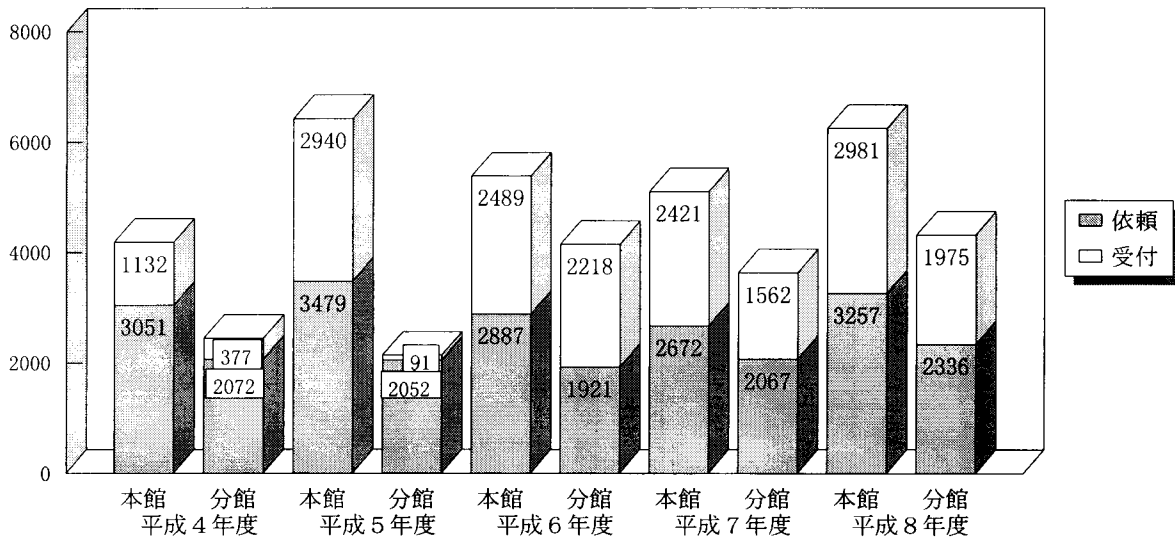
最近5年間の図書館利用統計



※土曜日は、平成4年5月から半日開館(9:00-12:00)を実施し、平成8年度からは全日開館(9:00-17:00)に変更した。



文献複写における受付・依頼件数 (単位: 件)



「ライブラリー・オリエンテーション」 情報処理センターで開催しました。

今年度の新入生のライブラリー・オリエンテーションは、4月16日～25日の6日間（水・木・金）、情報処理センターで開催することができました。各端末の隣にあるモニタ画面を見ながらの図書館利用案内、インターネットを利用した情報検索、そして、最後に OPAC の検索実習を行いました。

参加者は168名あり、一人一人が端末を操作できる環境で、モニタ画面での紹介と職員の補助も加わり、検索実習は熱心に行われ、前年度までの覗き込んでいた時と比べ、研修の効果が飛躍的に上がりました。アンケートにも「初めて検索できたことはうれしい」「図書館を利用しやすくなった」「図書館を活用していきたい」等、実際に自分で検索できた喜びの声が多くありました。



毎週木曜日の午後は、 OPAC（利用者用コンピュータ目録）の 検索実習を行っています。

新しいオリエンテーションとして、毎週木曜日の午後、OPAC の検索実習を図書館の検索コーナーにおいて行っています。気軽に参加して OPAC を自分のものにし、静岡大学附属図書館の蔵書 100 万冊を大いに利用して下さい。

日 時：毎週木曜日 13:00～15:00

内 容：図書・雑誌所蔵検索と配架場所

使用端末：検索コーナー 1 列目 2 台

静岡大学所蔵図書

1,000,000冊突破！！

今年の3月、静岡大学所蔵の図書（本館、浜松分館）が100万冊を突破しました。記念すべき100万冊目の本はこれです。

☆法のタテマエとホンネ

：日本法文化の実相をさぐる[新增補版]

柴田光蔵著 有斐閣

情報学部学生用（浜松分館開架）

320.4/Sh18

浜松分館からのお知らせ

書架の増設と館内の配置替え

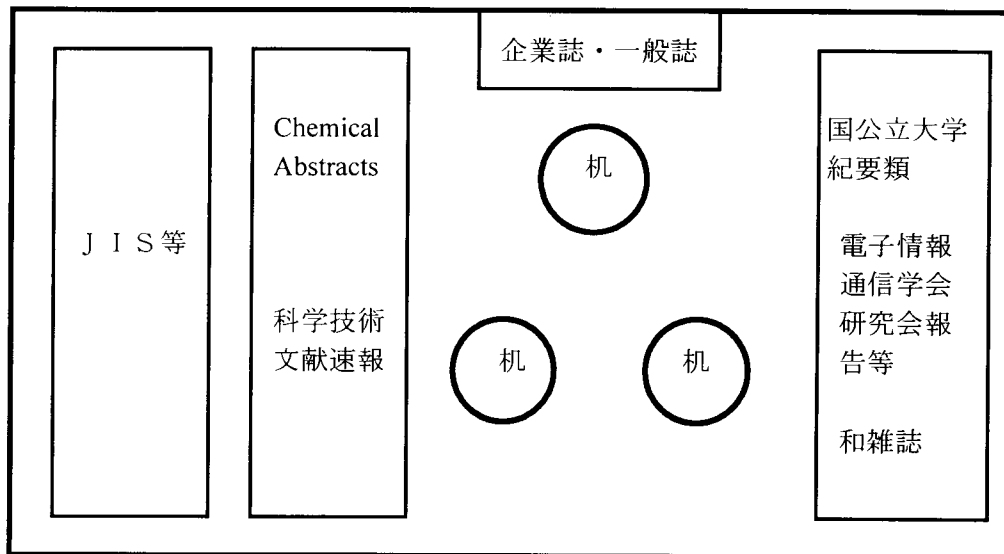
平成9年3月に浜松分館の1階閲覧室北側（参考図書閲覧室、受付カウンター、情報検索室）の絨毯を張り直し、写真のように明るい閲覧室になりました。

また、参考図書用低書架が2台増設され、1階開架図書閲覧室の書架と2階学術雑誌閲覧室北側の書架が増設され、1，2階合わせて、約1万6千冊（製本雑誌を含む）収容できるようになりました。開架図書閲覧室の書架には、情報学部推薦の図書（約2，100冊）が新たに増えました。



▲ 1階参考図書閲覧室

2階学術雑誌閲覧室北側は、下図のように配置が変わり、また、1階ブラウジングコーナーの一般雑誌、1階参考図書閲覧室のJ I Sや企業誌等は、2階和雑誌閲覧室へ移動し、雑誌類はすべて2階で閲覧できるようになりました。



▲ 2階学術雑誌閲覧室北側

教官著作寄贈図書一覧

*このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。受入期間は平成8年から平成9年4月です。なお、所属は受入当時の所属を示します。

- ◇新井清三郎(名誉教授)
 - ・傷害を考える: 発達の原点から 学芸図書【378/A62】
- ◇荒川紘(情報学部)
 - ・龍の起源 紀伊國屋【388/A63】
- ◇稲垣訓宏(工学部)
 - ・Plasma surface modification and plasma polymerization. Technomic Co.【571/I52】 開架
- ◇岩垣功(農学部)
 - ・熱帯果樹と樹木作物 <執筆> 養賢堂【625.8/Ki58】
- ◇小澤康彦(人文学部)
 - ・随想集 静岡大学人文学部英米文学研究室【049.1/O97】
- ◇小和田哲男(教育学部)
 - ・久能山城: 久能山城跡現況遺構確認調査報告書 <監修> 久能山東照宮・静岡古城委員会【210.2/I-SIZUOKA】
- ◇金子利子(教育学部)
 - ・生活者としての人間発達 <共編著> 家政教育社【371.4/Ka53】
 - ・みんなとともに歩む = 胎児性水俣病・知恵子の発達 = [出版社不明]【369.27/F95】
- ◇川口博(名誉教授)
 - ・身分制国家とネーデルランドの反乱 彩流社【235.9/Ka92】
- ◇木村誠(教育学部)
 - ・子どもの工作遊びと技能学習 (静岡大学教育学部) 技能教授研究会【375.72/Ki39】
 - ・子どもの工作遊びと技能学習 (静岡大学教育学部) 技能教授研究会【375.72/Ki39】 開架
 - ・イギリスにおける教育改革と技術教育のカリキュラム 開隆堂【372.33/Ki39】
 - ・イギリスにおける教育改革と技術教育のカリキュラム 開隆堂【372.33/Ki39】 開架
- ◇五井直弘(名誉教授)
 - ・中国の近代都市 <編> 汲古書院【222.03/G58】
- ◇小島英夫(理学部)
 - ・常温核融合の発見: 固体-核物理学の展開と21世紀のエネルギー 大竹出版【429.5/Ko39】
- ◇小島義夫(名誉教授)
 - ・粟生津よ 黒船印刷【911.168/Ko39】 2冊
- ◇後藤正夫(名誉教授)
 - ・ミクロの世界に魅せられて: 植物病原細菌の虚像と実像 日本植物防疫協会【615.82/G72】
- ◇坂本重雄(名誉教授)
 - ・大学キャンパス三〇年 (静岡大学人文学部) 坂本重雄先生退官記念事業会【377.04/Sa32】 4冊
- ◇桜井良治(人文学部)
 - ・分権的土地政策と財政 ギョウせい【334.6/Sa47】

- ◇塩川亮(教育学部)
 - ・御前崎町史: 写真集 <執筆> 御前崎町【215.4/O61】
- ◇竹内康博(工学部)
 - ・Global dynamical properties of lotka-volterra systems World Scientific.【413/Ta67】
- ◇中山顕(工学部)
 - ・PC-aided numerical heat transfer and convective flow CRC Press.【426.3/N45】
- ◇野口基子(理学部)
 - ・生殖細胞: 形態から分子へ <共編著> 共立出版【463.8/O38】
- ◇長谷川罔彦(理学部)
 - ・放射線と放射能: 宇宙・地球環境におけるその存在と動き <共訳> 学会出版センター【429.4/D91】
- ◇藤原靖名(名誉教授)
 - ・随筆集 小はぜの環 [出版地不明]【914.6/F68】
- ◇本多隆成(人文学部)
 - ・豊岡村史 資料編1 近世 <編纂・監修> 豊岡村【215.4/To91/1】
 - ・豊岡村百話(豊岡村史別巻) <編纂・監修> 豊岡村【215.4/To91/A】
 - ・浅羽町史 資料編2 近世 <監修・執筆> 浅羽町【215.4/A81/2】
 - ・今川氏研究の成果と課題: シンポジウム <静岡県地域史研究会会長> 静岡県地域史研究会【215.4/Sh64】
- ◇牧野紀之(非常勤講師)
 - ・音読主義のドイツ語 信山社【840.7/Ma35】
- ◇森治(人文学部)
 - ・ツェラーン 清水書院【941/C29M】
- ◇森本隆子(人文学部)
 - ・静岡県と作家たち: 近代の文学史 <執筆> 静岡県近代文学研究会編 静岡新聞社【910.26/Sh94】
- ◇山崎準二(教育学部)
 - ・教員養成系学部・大学の改革動向に関する資料集 第1集 <共編> [出版社不明]【377.1/N77/1】
 - ・教員養成系学部・大学の改革動向に関する資料集 第1集 <共編> [出版社不明]【377.1/N77/1】 開架
- ◇山本義彦(人文学部)
 - ・清沢淵の政治経済思想: 近代日本の自由主義と国際平和 御茶の水書房【331/Ki91Y】
 - ・森町史 資料編4 近現代 <執筆> 森町【215.4/Mo46(1)】
 - ・森町史 資料編4 近現代 別冊 <執筆> 森町【215.4/Mo46(2)】
- ◇山脇貞司(人文学部)
 - ・高齢者介護の政策問題 <共編著> 勁草書房【369.26/Sa32】

図書館では学内関係者が執筆した図書資料を収集しています。出版されましたら是非、図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

☆ 図 書 館 の 動 き ☆

平成8年度第4回図書館委員会

(平成9年3月17日(月) 於: 図書館会議室)

議 題

1. 平成10年度概算要求事項について
2. 平成9年度大型コレクション収書計画について
3. 平成9年度自然科学系資料収書計画について
4. 静岡大学附属図書館「図書館通信」発行要項の改正について
5. その他

報告事項

1. 図書館業務電子計算機システム更新計画について
2. 平成8年度特別運営費の執行について
3. SCS事業実施に伴う附属図書館視聴覚室の活用について
4. 静岡大学CD-ROM等データベース所蔵一覧について
5. 事務改善委員会図書部について
6. 平成9年度図書館委員会等委員の選出について
7. その他

平成9年度図書館委員会委員

図 書 館 長	久保 靖→杉田 泰一(平成9年7月1日から)
浜松分館長	石井 仁→渥美 邦夫(平成9年7月1日から)
人文学部	三浦 弘万 大江 泰一郎
教育学部	大塚 謙一 渡邊 弥生
情報学部	中尾 健二 鈴木 淳之
理学部	尾形 照彦
	和田 秀樹(理工学研究科兼任)
工学部	戸田三津夫(理工学研究科兼任)
農学部	西垣定治郎 早津 雅仁
電子科学研究科	石川 賢司 河本 映
電子工学研究所	山口十六夫 村上 健司
法経短期大学部	葛野 尋之
事務局	大嶋 浩
附属図書館	湯本 一義

平成9年度東海地区国立大学図書館協議会総会

(平成9年4月18日(金) 於: 名古屋大学)

図書館長、事務部長、情報サービス課長が出席し、国立大学図書館協議会諸会議報告及び地区協議会活動状況報告に引き続き、文部大臣等に対する要望、NACSIS-ILLシステム利用指針の制定等について協議した。

平成9年度国立大学附属図書館事務部課長会議

(平成9年5月27日(火) 於: 東京医科歯科大学)

事務部長、情報管理課長が出席し、当面する諸課題について文部省からの説明後、大学図書館の機能充実について協議した。

平成9年度図書館業務電算化委員会委員

図 書 館 長	久保 靖→杉田 泰一(平成9年7月1日から)
浜松分館長	石井 仁→渥美 邦夫(平成9年7月1日から)
人文学部	三浦 弘万 大江 泰一郎
教育学部	須貝 静直 大塚 謙一
情報学部	中尾 健二 鈴木 淳之
理学部	小沼 茂樹 和田 秀樹
工学部	石井 仁 戸田三津夫
農学部	西垣定治郎 早津 雅仁
電子科学研究科	河本 映
電子工学研究所	山口十六夫
法経短期大学部	葛野 尋之
附属図書館	湯本 一義 奥田 道夫
	矢野 誠 塚本 雅美

人 事 異 動

平成9年3月31日(定年退職)

春山 俊夫(図書館専門員)

平成9年度図書館通信編集委員

平成9年4月1日

鈴木 英夫(事務部長 → 群馬大学附属図書館事務部長)
 湯本 一義(千葉大学附属図書館情報管理課長 → 事務部長)
 森松睦雄(情報管理課長→長崎大学附属図書館情報サービス課長)
 奥田 道夫(福井大学会計課長 → 情報管理課長)
 石原 良江(和書係長 → 図書館専門員)
 長南千恵子(洋書係長 → 和書係長)
 基田美保子(浜松分館 → 洋書係長)
 山田 典代(総務係庶務主任 → 農学部庶務係庶務主任)
 杉坂 和子(理学部庶務係庶務主任 → 総務係庶務主任)
 渡邊 通江(洋書係 → 浜松分館)
 近藤 久直(浜松医科大学教務部図書課 → 洋書係)

図 書 館 長	久保 靖→杉田 泰一(平成9年7月1日から)
情報学部	中尾 健二
理学部	和田 秀樹
附属図書館	矢野 誠 塚本 雅美
	杉坂 和子 村上 真佐子
	近藤 久直 佐藤 和 慧
	杉浦 昭重 江口 敏一

開館スケジュール (本館) 1997.7 ~ 10

 休館日
 17時閉館

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間 月～金 8:30～20:45 土 9:00～17:00

*夏季休業期間中の開館は平日 8:30～17:00 で、延長開館はありません。土曜日は休館になります。

長期貸出が始まります

夏季休業中は図書の長期貸出を行います。7月31日(木)から9月22日(月)までに貸出した図書の返却期限は10月1日(水)となります。

図書館利用票を取りに来ましたか？

人文 32%、教育 45%、理 30%、工 47%、農 46%、情報 41%

この数字は、「図書館利用票」を受け取りに来ていない1年生の割合を示したものです。交付を受けていない学生は、至急、学生証を持参して、カウンターまで受け取りに来て下さい。2、3、4年生でまだ交付を受けていない学生も、大至急、受け取りにきてください。なお、利用票の交付を受けないと図書の貸出はできません。